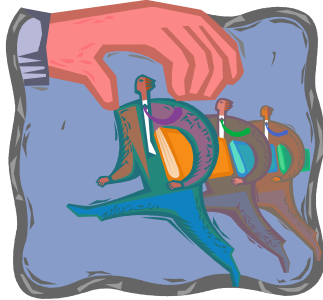


## 「新人類」「公務員」「？」

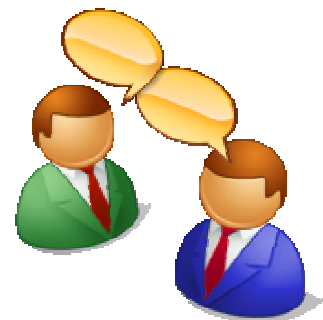
**皆**さんの中で、「新人類」という言葉をご記憶の方々はどれくらいおられるでしょうか？SFやアニメの中の言葉のようですが、「新人類」とは、私の世代が、就職期(昭和 62 年)に諸先輩方から世代を象徴する言葉として冠されたものです。この言葉には、「近頃の若い者とは、コミュニケーションがとれない!」といった意味と、「考え方や発想が自分たちとはまるで違って理解できない。」といった意味が込められていました。



**私**も、市職員に採用された当時には、その風体や考え方や行動などから「公務員らしくない。」と言われた(怒られた)ものですが、その後、年月は流れ20年余、「新人類」も、立派な(?)「公務員」になっています。しっかりと仕事をしていると言う意味ではなく、考え方が「公務員的」になっていると言う意味です。よく言えば、慣習や前例を大切に、堅実な物事の考え方を身につけたと言え、悪く言えば、考え方が硬直化し、安全な方法を好むようになり、新たな物事へ挑むときには、そのことから発生するデメリットのほうが、メリットよりも重大な問題だと考えがちになりました。公務員的価値観や考え方は、平等性や正確さを求められる行政の職務には欠かせない大事なものではありませんが、他方、市民の方々の考え方との間に乖離を生み、行政への不満、不信感を呼び起こす大きな要因ともなっています。

**自**分の場合にはどうでしょうか？毎週日曜日の某TV番組で放映されるいろいろな問題への自治体の対応と住民の反応を見るにつけ、「やりたいんだけど、仕方が無いんだよね。」と自治体側に強く共感している自分がいます。久しぶりに会った友人と語っている時、「お前は公務員だからそう思うんだよ。」と言われてしまいます。そんな時、市民感覚と自分の感覚には、大きなズレが生じているんだと気付かされます。かつて「新人類」であった時、市役所での仕事に何となく感じていた違和感や、いろいろなことを「なぜできないのかな?」と考えていた自分は間違いなく「公務員」でなく「市民」の目線を持っていました。

**で**は、なぜ市民と離れた感覚を身につけてしまったのでしょうか？一因は、自分の「世界の狭さ」にあります。公務員の世界は、仕事上触れ合う人々も公務員に限定されがちであり、長く仕事を続けていると、気付けば友人も公務員ばかりとなってしまいます。同じ立場の人間たちの意見が行き着く場所は一緒であり、同じ生活を送っている人間のもつ情報は、似たりよったりのものです。それこそが、「新人類」を「公務員」にしてしまった原因ではないでしょうか？もっともっと世間に出よう、いろいろな人々と触れ合い、いろいろな考え方や、情報を吸収しよう。遊びでも良い、仕事でも良い。そうした日常生活が糧となり、硬直化した「公務員」を、もう一度、柔軟な「新人類」へと戻してくれるでしょう。皆さんの生活はどうですか？



(政策経営部 増井直樹)

## “あったかいまち”で あり続けるために

**私**は、市役所へ入庁して、現在の所属へ異動となる前に2つの部署を経験していますが、変わらないのは、窓口業務があることです。市役所の仕事では、頻度は異なりますが、窓口業務のあるところがほとんどです。様々な市民の方と接し、応対することで、臨機応変に対応することや、業務の正確さの重要性を学ぶことができます。まだまだ不足する部分や反省すべき点は多いですが、何よりも窓口に来られた方が説明に納得していただけたと感じる時が、自分自身がひとつ成長したと感じる瞬間でもあります。



三浦を表現するとき、「あったかいまち」と表されることが多いですが、私は、市外出身でありながら、入庁当初より、窓口業務を行うことで、三浦の「あったかさ」を肌で感じる事ができたのだと思います。窓口で対応するお客様は年代も性別も様々で、求められる情報も対応の仕方も様々です。また、電話での問い合わせとなると、顔が見えない分、より慎重に対応するよう心がけるようになりました。

**先**日、平成17年度から平成18年度にかけて行われた業務量調査の結果がまとまり庁内配信されました。担当別の報告書によると、私の所属についての報告では、「特殊な職場であり、時間管理が難しい。」「効率化、改革改善が馴染みにくい職場であるが、身近なことから少しずつ、検討していくしかない。」というコメントが寄せられています。分かっているけど、それ(検討・改善)がなかなか思ったように進まないんだよね・・・と感していました。

**近**年、制度改正等のさまざまな要因により、事務手続きの大幅な変更や、追加は珍しくなくなってきています。また、そうした環境と並行する

ように、経費節減や業務の効率化を求めるといった職場の状況変化も進んできました。早いペースで着実に変化している環境に対して、職員一人一人が、より柔軟な姿勢で対応していくことが求められていると感じています。少しでも、効率的に業務を進めていくことは大事ですが、観光客や転入者、市外からのお客様にとっては、私のように市外出身の職員であっても「三浦の人間」です。キャッチフレーズである「あったかいまち」という印象を市役所自らが損なうことなく、日々の業務をいかに効率よく進めていくかは、大きな課題であると感じます。前述した業務量調査の報告書を参考にするなどのように、外からの見方を知ることで、改善すべき点でありながら、自分自身では気がつかなかった問題点に気づくことができることもあるでしょう。まずは、身近な部分から検討し、整理整頓。小さなことですが、一人一人が心がけることが、効率化・改善への第一歩となるのかもしれない。

(政策経営部 齋藤幸子)

## 暴論オピニオン

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

### 成果主義は悪者か？

先日テレビで某有名占い師が、日本の伝統的な終身雇用制の意義を見直すべきだと語っていた。報道でも同じような主張がなされているのを見聞きする。欧米型の成果主義経営が、かえって社員のモチベーションを低下させているというのがその論拠である。特に、わが国の家族観や共同体意識のもとでは、帰属意識に基づく忠誠心が仕事に向かう志気の源泉となるため、会社から監視され、働かされ、試されるような成果主義経営の仕組みは忌避される可能性があるといった主張もある。

この問題の本質は相当に深遠である。孟子の性善説と荀子の性悪説の対立のようなものである。近代的な理論としては「XY理論」というものがある。マサチューセッツ工科大学のダグラス・マクレガー氏(心理学、経営学)が著した『企業の人間の側面』では、経営手法を「権限行使と命令統制による経営」(X理論)と「統合と自己統制による経営」(Y理論)に大別し、Y理論の方が将来の良い経営手法になると主張している。



お互いに迷惑をかける、困っていたら助け合う、大切なイエ(会社)を守りたい、といった家族主義的共同体意識が終身雇用制によって維持・強化

公務員界の雇用事情を振り返ってみよう。民間サラリーマンとの大きな違いは法的に保障された終身雇用である。この終身身分保障は伝統的家族観に基づく仕組みというわけではなく、職務上の義務の代償である。災害時に家族の側にいてあげたいという思いを犠牲にすることの代償、政治的主張を行動に表したい気持ちを抑えることの代償、労働権の制約に対する代償。主体性に任せていたらまっとうされない(受け入れられない)と思われる義務や制約(ムチ)であるだけに終身身分保障(アメ)が必要だと考えられているのであろう。

このような見方をすると、公務員界における終身雇用は、実はアメとムチ、つまり「X理論」的経営手法と

して位置付けられているとすることができる。「X理論」では“自己統制的要素”、簡単に言えば“主体性”が軽んじられているから、決められたことだけを決められたルールに従ってやっていけばよいという意識が育ちやすい。公務員に対して投げかけられる「休まず、遅れず、働かず」という揶揄はそのような意識に向けられたものだろう。

お互いに迷惑をかける、困っていたら助け合う、大切なイエ(会社)を守りたい、といった家族主義的共同体意識が終身雇用制によって維持・強化



され、その志気の高さが成長力の源泉となってきた「Y理論」的民間企業経営を思うと、同じ終身雇用制でも、その意味がずいぶん違うのだということに気付かされる。

民間企業において言われている成果主義に対する批判や反省の意味も、公務員界にそのままあてはまるものではあるまい。そもそも経営原理が違うのである。その点を無視して、「成果主義 = 悪者」という世間の風潮に踊らされていると大きな間違いを犯しかねない。

次号(第21号)は4月17日発行です。

### 「ぼっこすこせえる」とは…

神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。晴天に恵まれた去る3月2日に、市内最大級のイベントである『第26回三浦国際市民マラソン』を開催しました。ここ数年、メタボリックシンドロームが注目されるなど健康に対する意識の高まりを背景にして、各地でマラソン大会が開催されており、全国的なマラソンブームが巻き起こっています。首都圏の中でも比較的温暖な気候の三浦で開催するこのマラソン大会は、心身の健全な育成を願い、記録より完走を目的に、健康な方なら誰でも参加できる一般参加型の健康マラソン大会です。私は、市長就任当初から、まちづくりの理念として『ロハス』を提唱しています。『ロハス』とは「心身ともに健康で、環境にもやさしい暮らし方」という意味です。自然豊かな三浦で開催するこのマラソン大会に参加すれば、『ロハス』が意味する豊かさを体感出来ること間違いなしです。